

月の輪

繁殖

寿命

爪と筋肉

大きさ

ツキノワグマとヒト。日本にはこの2種のクマが生息しています。クマは北海道のみに生息し、そのほの地域に幅広く生息しているのがツキノワグマ。胸に月の形をした白い毛が生えているのが特徴です。九州のツキノワグマは2階級の体格になります。ツキノワグマはヒトよりも大きく、ツキノワグマに比べるとツキノワグマといふ固有種。

野生下で20歳を過ぎると30歳を過ぎると、後脚に比べて前脚の筋肉が太く発達しています。

メスは数年前に1〜2頭の子を産みます。

繁殖期は6月〜8月頃です。

脚に白い「三日」模様があります。ツキノワグマの名前に由来にもなっており、英語ではMoon Bear (ムーンベア：月熊)とも呼ばれます。

メスは200km<sup>2</sup>、オスは100〜200km<sup>2</sup>の広い面積を均等に利用する。餌ではなく、集中して利用する場所がいくつも存在します。

オスで750〜100km<sup>2</sup>、メスで100〜200km<sup>2</sup>の広い面積を均等に利用する。餌ではなく、集中して利用する場所がいくつも存在します。

オスで140cm程度、メスで120cm程度です。

歩行時の体高は50〜60cm程度です。

※四国の種個体データに基づく数値

オス(平均) 体長約140cm 体重約60kg  
メス(平均) 体長約120cm 体重約45kg

ナコ目(食肉目)クマ科 ツキノワグマ *Ursus thibetanus japonicus*

ツキノワグマはアジアに広く分布する森林性の動物です。日本に生息するクマはその亜種となり、世界的には、ほとんどその地域で減少しており、日本の本州だけは例外的に分布域が広がっています。美は、九州では絶滅し、四国では今まさに絶滅の危機を迎えています。

# ツキノワグマの体

四国のツキノワグマの絶滅を食い止めるために、私たちにできること

Save The Island Bear SOS!

ISLAND BEAR Friendly

7-11 SHOP 2025

活動報告冊子 発行：認定特定非営利活動法人四国自然史科学センター 制作協力：日本自然保護協会 日本クマネットワーク CPSG Japan

行動範囲

食へ物

生息地

オスは冬眠中に産出し、冬眠穴から獲り活動を再開します。翌年の3〜4月頃に冬眠穴を再開します。

森に食べ物が少なくなる11〜12月頃から木の洞や岩穴などで寝て過ごします。

オスで750〜100km<sup>2</sup>、メスで100〜200km<sup>2</sup>の広い面積を均等に利用する。餌ではなく、集中して利用する場所がいくつも存在します。

オスで140cm程度、メスで120cm程度です。

歩行時の体高は50〜60cm程度です。

※四国の種個体データに基づく数値

オス(平均) 体長約140cm 体重約60kg  
メス(平均) 体長約120cm 体重約45kg

ナコ目(食肉目)クマ科 ツキノワグマ *Ursus thibetanus japonicus*

ツキノワグマの本来の暮らしはあまり知られていません。肉食と思われがちですが、実はほとんどのツキノワグマは、肉食と植物食の両方を食べています。人間ほどの大きなツキノワグマが森林で生き残るためには、四国折々の多様な食物を供給する豊かな森林が必要です。

# ツキノワグマの暮らし

関係機関の紹介

四国自然史科学センター (SINH) 日本自然保護協会 (JBN) 日本クマネットワーク

活動概要

- 地域への情報発信
- 軋轢の予防措置
- 生息地の環境整備
- 地域の利益推進

みなさんへのお願い

LINEスタンプでツキノワグマを守ろう!

「しこくまワークショップ」の最新情報をチェック!

この冊子で知ったことを「#四国ツキノワグマ」をつけて、SNSでつぶやこう!

問合せはこちらまで 四国自然史科学センター 高知県須崎市下分乙470の1 http://www.lutra.jp/ TEL 0889-40-0840 Email bear\_info@lutra.jp 担当：安藤・山田

ツキノワグマの役割

可能性

個体数

自然におけるクマの大きな役割の一つが、種を散布すること。植物は種を速くまで移動させるために、動物に種を食べてもらい、その動物が移動し先で糞として残す。植物は種を速くまで移動させるために、動物に種を食べてもらい、その動物が移動し先で糞として残す。

近年の生息数は、わが国1〜24頭と推定されました。

絶滅の危機 四国のツキノワグマは、最悪のケースでは、2036年の絶滅確率が62%という研究結果があるほど極めて危機的な状況にあります。

多様な樹種で構成される落葉広葉樹林

同クマでも、「四国のクマ」が大切

# “四国のツキノワグマ”は“ISLAND BEAR(島熊)”

「しこくまワークショップ」とは

科学的な分析

地域とクマの適正な関係性を考える

期待できる効果

四国の豊かな自然のシンボル、ツキノワグマを林業や観光等の産業に活かす

四国の森林保全活動を促進し、自然度の高い森林が復元される

「地域とクマのよい距離」を定義し、トラブル防止の体制が整備される

問合せはこちらまで 四国自然史科学センター 高知県須崎市下分乙470の1 http://www.lutra.jp/ TEL 0889-40-0840 Email bear\_info@lutra.jp 担当：安藤・山田

調査と保全に向けた取り組み概要

好適な生息環境の減少

過剰な駆除

1986年 高知県にて捕獲禁止措置開始

1987年 徳島県にて捕獲禁止措置開始

1991年 徳島県「ツキノワグマ」に絶滅のおそれのある地域個体群」と掲載

1993〜1995年 徳島県が生息調査を実施

2000年 徳島県「ツキノワグマ」に絶滅危険個体群」と掲載

2001年 徳島県「ツキノワグマ」に絶滅危険個体群」と掲載

2002年 高知県「ツキノワグマ」に絶滅危険個体群」と掲載

2003年 愛媛県「ツキノワグマ」に絶滅危険個体群」と掲載

2008年 高知県が「高知県指定希少野生動物種」に指定

2009年 高知県「高知県指定希少野生動物種」に指定

2017年 「ツキノワグマ」四国地域個体群の保全に係る広域協議会」を設置される

2020年 広域協議会が「ツキノワグマ」四国地域個体群保護指針」を策定

2021年 広域協議会が「四国におけるツキノワグマ」を策定

四国における減少の原因

# 四国における減少の原因

「しこくまワークショップ」とは

科学的な分析

地域とクマの適正な関係性を考える

期待できる効果

四国の豊かな自然のシンボル、ツキノワグマを林業や観光等の産業に活かす

四国の森林保全活動を促進し、自然度の高い森林が復元される

「地域とクマのよい距離」を定義し、トラブル防止の体制が整備される

問合せはこちらまで 四国自然史科学センター 高知県須崎市下分乙470の1 http://www.lutra.jp/ TEL 0889-40-0840 Email bear\_info@lutra.jp 担当：安藤・山田

# 情報の発信

クマの生息地では、対策の不十分さやクマを正しく知らないことにより、クマの生息に過度の不安を抱いたり、存続の価値が認知されないといった課題があります。そこで、四国のツキノワグマの現状や生態、クマが生息する森林の価値等について広く情報を発信し、クマを正しく知ってもらう取り組みを行っています。



クマを知ってもらうためのセミナー開催  
チラシやニュースレターでクマの情報を発信  
情報発信クマブースの出版



四国のクマの生息情報パネルの展示  
木頭クマまつりの開催  
木頭小学校故郷学習、出前事業

# 生息状況の把握調査

動物の熱に反応して自動で動画を撮影するセンサーカメラを使い、ツキノワグマの生息確認を行っています。現在、四国に残る20頭程度のツキノワグマの分布範囲や繁殖状況をモニタリングしています。他にも様々な機関が連携して調査を進めており、毎年約100台程のセンサーカメラが剣山系に設置されています。



センサーカメラを山に設置する様子  
剣山北側のエリアでカメラに写ったメスの個体

研究目的の学術捕獲によりツキノワグマの生態情報を取得します。さまざまな機関の連携により、四国ではこれまでに40回以上の学術捕獲が実施されました。捕獲個体からは、性別、年齢、血縁関係などが明らかになり、個体群の現状の評価に役立っています。



麻酔で眠ったクマの体のサイズ測定や血液等の採取、必要に応じた検査や追跡装置の装着などをして、覚醒後、山に戻します。

# ISLAND BEAR Friendly

## 地域とクマの共生に寄与する商品・サービス

クマの生息地にある特産品や、森林保全、人とクマの軋轢防止活動などから生まれる商品やサービスを「ISLAND BEAR Friendly」(アイランドベアフレンドリー)と名付けました。豊かな森林が残るこの土地を舞台に、人とツキノワグマが共生できる持続可能な地域づくりを目指しています。



ISLAND BEAR FRIENDLY のロゴ  
ツキノワ(三日月)の船に、人とツキノワグマが同乗し、その下には四国のシルエットが浮かびます。四国における人とクマの共生をイメージしています。

### ISLAND BEAR Friendly五稜箸

植林地の適正管理の過程で生じる間伐材を有効活用した箸です。材料には地域のブランド杉「木頭杉」の中心部を厳選しており、手に馴染みやすい五角形に加工した高級箸です。



### 熊の生息地を巡る、山歩きツアー

自然豊かな四国の山でクマの生息地を巡る山歩きツアーや、専門家とともにクマの生息実態調査を実施。クマの生態や保全について知る機会になるとともに、訪問客による地域の活性化にもつながります。



クマ生息地の特産品や、森林保全、クマの保全に寄与するモノを協力して制作したい! という方は下記までお問い合わせください。

認定特定非営利活動法人四国自然科学研究センター  
TEL 0889-40-0840 Email bear\_info@lutra.jp 担当: 安藤・山田



# 地域とクマのトラブル防止

ハチミツの蜜源が豊富な自然の林は、ツキノワグマが好む生息地でもあります。そのような地域に置かれる蜜罠はクマの被害に遭うことがあります。当プロジェクトでは、地域住民に電気柵一式を無償で貸し出し、被害防止のノウハウを普及しています。今年度は、過去に蜜罠被害に遭った3名の方々と協力して被害対策を実施しました。これらの場所での被害はゼロです。

## 電気柵って何?

触れると電気ショックを与える柵で蜜罠のあるエリアを囲みます。電気柵に触れた動物に強烈な痛みを与えるため「また触れると痛いかも」という警戒心を与え、再度侵入する意欲を失わせる効果があります。クマ類の被害対策に有効な手段として世界中で使われています。

## なぜ被害対策が必要なの?

ハチミツはツキノワグマにとってご馳走です。蜜罠を食べてもよいエサと学習した個体が蜜罠に執着してしまうと、被害防除が難しくなります。また、クマが蜜罠を探す過程で人里まで近づいてしまう可能性も考えられます。このようなクマを四国で「作らない」ためには、被害初期の段階から早急に対策を行うことが肝心です。人と野生動物のトラブルを防止するには人間側の工夫も大切になります。

## ISLAND BEAR Friendly

### スポット紹介

<p><b>ISLAND BEAR Friendlyとは、地域とツキノワグマが共生できる地域づくりをサポートする取り組みです(右参照)。以下のスポットで、この取り組みに参加したり、商品を手にとりたりすることができます。</b></p>	
<p><b>木頭図書館</b> 徳島県ツキノワグマの生息する山の中にある公共図書館。ツキノワグマの保護富山の保全にも取り組む</p>	<p><b>株式会社 Wood Head</b> アイランドベア商品「五稜箸」など、徳島県の「木頭杉」を使用した木製品を製造。森の保全にも取り組む</p>
<p><b>山の家奥槍戸</b> 剣山・次郎笈(ジロウギョウ)直下に立つログハウス風の町営休憩所</p>	<p><b>四国山岳植物園 岳人の森</b> 徳島県神山町、標高1000mの山にある植物園</p>
<p><b>剣山頂上ヒュッテ</b> 日本百名山の剣山(1955m)の頂上直下にある山小屋</p>	<p><b>未来コンビニ</b> 子供の未来を育む、人と地域を結ぶ場所としてオープンしたコンビニ</p>

# わたしたちはツキノワグマの生息地でこんな活動をしています



四国ツキノワグマ保護プログラム  
ツキノワグマの生息する世界で一番小さな島

## クマが暮らす地域でトラブルを避けるためには、第一に、クマに出会わないための工夫が大切!

### クマは危険なの?

通常、クマは人を獲物として見ていません。状況によって人に危害を及ぼすこともありますが、警戒心が強く臆病な動物なので、森の中では人間よりもクマが先に人の存在に気づき、その場を離れることが多いです。クマとのトラブルを回避するには、正しいクマの知識と遭遇時の対処方法を知ることが大切です。



- 人里付近では** クマに食べ物を与えないことが重要です。放置果樹、放置作物、生ごみなどクマを誘因するものは除去しましょう。蜜罠などを設置する際には電気柵を活用することも有効です。
- 山で活動するときは** 問題を起こすクマを作らないために、残飯などは山に残さず持ち帰りましょう。また、クマの方に先に自分の存在に気づいてもらうため、クマ鈴など音の出るものを携帯するか、見通しの悪い藪や林道では声を出す、手を叩くなどして音を立てましょう。

もしも出会ってしまったら逃げずにとにかく落ち着いて冷静に行動することが重要です。

- 急に会った瞬間や、子グマを連れてくる状況では、身を守るための行動として攻撃をしていくことがあります。**
- 距離が離れてる** ゆっくりとその場を立ち去りましょう。
- 距離が近い** 走ったり大声を出したりして刺激するのは危険。クマから目を離さずにゆっくりと後退しましょう。
- 向かってきたら(威嚇突進)** 威嚇突進の場合は途中で止まり後退、もしくは目の前でUターンすることが多いです。落ち着いてクマとの間に障害物が来るようにゆっくりと後退しましょう。
- 突進してきたら(攻撃突進)** クマスプレーを噴射、それでも攻撃を受けた時には、うつ伏せになり急所を守る防御態勢をとりましょう。



電気柵は、正しい張り方で設置する必要があります。電気柵を利用して被害防除をしたいという方はお問い合わせください(表ページのお問合せ先まで)。